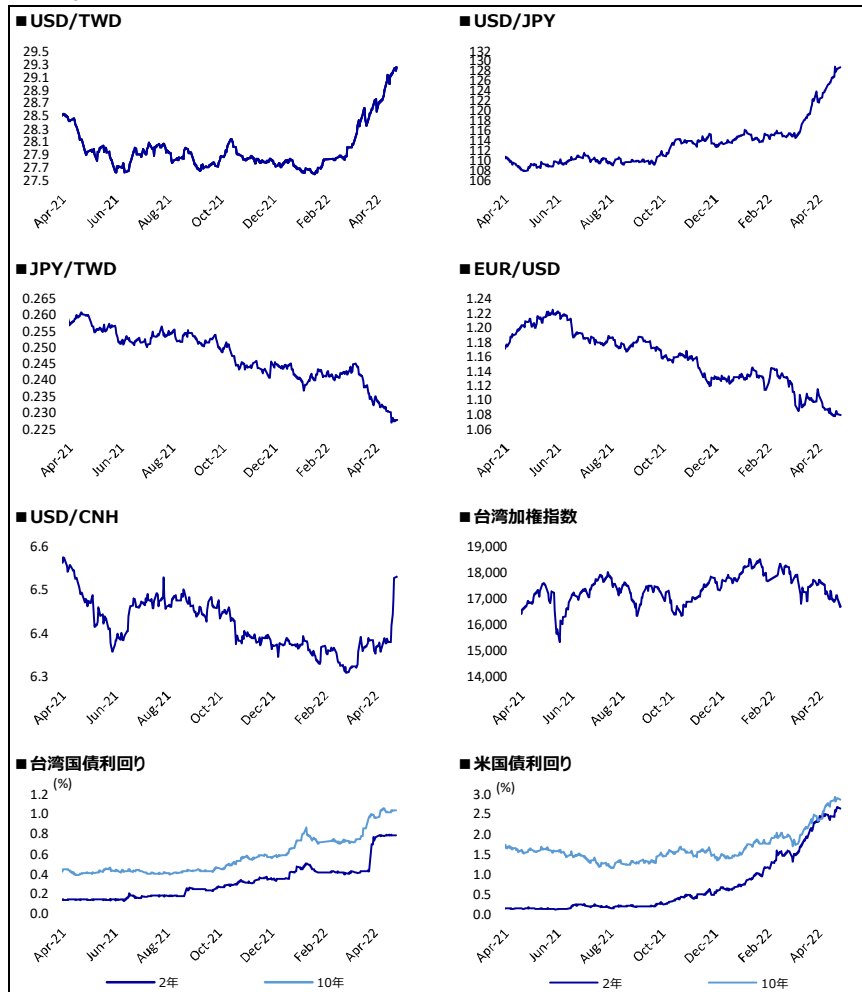


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初4/18は29.160でオープン後、香港等がイースターで休日ではあったが、外国人投資家の資金流出が拡大し、約1年7か月ぶりに29.20台に乗せた。4/19は台湾株が上昇し、外国人投資家の株式売買は買い越しに転じたものの、米金利の上昇を背景にドル買いが優勢となり29.24付近まで上昇。4/20は米金利の上昇を受けドルが買われると、一時29.310まで上昇し、直近高値の更新。しかし、29.3台では輸出企業のドル売りが入り、29.2台に戻した。4/21は台湾株が反発すると外国人投資家の台湾ドル買いが拡大し、一時29.155まで下落。しかし、台湾加権指数が下落に転じると海外勢・国内勢共に台湾ドル売りに転じ、29.2台に戻した。4/22は米金利の上昇や台湾株の下落から再びドル買いが優勢となり、最終的に先週比0.5%ドル高台湾ドル安の29.260で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は230.5億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初4/18は126.41でオープン後、引き続きイースター休暇で市場参加者が少なく、流動性に乏しい中、黒田日銀総裁が急速な円安はマイナスとの発言を受け、一時126.25まで下落。しかし、売りは一時的なもので、特段材料のない中、米金利の上昇につられてドルが買われると127円ちよどをつけた。4/19も特段材料がない中、前日からの円売りが継続すると127円台に入り、鈴木財務相の円安けん制発言にも反応せず、じりじり上昇し128円台に乗せ、米金利・米株の上昇もあり、128円台後半まで上昇。4/20も円安の流れが続き、一時129.47まで上昇したが、利益確定の動きや米金利の低下によりドル売りが優勢となると、127円台半ばまで下落。4/21はG7財務相会議後に鈴木財務相から為替が主要議題にならなかったとの発言を受け、128円台半ばまで上昇したものの勢いは続かず。しかし、FRB高官から早期利上げの発言が続くと128円台後半まで上昇。4/22は日米財務相会談において協調介入が議論されたことが報じられると127円台後半まで下落したが、「黒田日銀総裁から円安でも積極的な金融緩和を継続する必要」とのヘッドラインが伝わるも129円台に乗せた。しかし、黒田総裁が円に言及していなかったと報道が訂正されたことや、米株の大幅下落、米金利の低下を背景にドル円も128円台半ばまで下落。最終的に先週比1.5%ドル高円安の128.50で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：29.050-29.450
今週は月末ではあるが、輸出企業が台湾ドル安のトレンドではドル売りを見送っており、ドル台湾ドルの上昇が続くと見込む。ただし、台湾ドル高に転じると輸出企業はドル売りを急ぐ傾向にあり、株価の動向には注意をしたい。

■ USD/JPY 予想レンジ：127.50-130.50
先週は130円を前に調整相場となり、上値を試すには新たな材料が必要となるであろう。今週は日銀の金融政策決定会合が予定されており、円安・緩和政策に対してどのような姿勢が示されるかを注目したい。

今週の予定

4/25 (MON)	
4/26 (TUE)	米3月耐久財受注、米4月消費者信頼感指数、米3月新築住宅販売件数
4/27 (WED)	
4/28 (THU)	台湾Q1 GDP速報値、日銀金融政策決定会合
4/29 (FRI)	日本休場

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。